

## 本時のねらい

誰に対しても分け隔てをしないで接することの大切さを理解させ、公正・公平な態度で接しようとする態度を養う。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

ミライシードで、『みさきさんのえがお』というお話に共感できたかどうか、自分の考えを書いて全員の考えを共有する。

悩む僕の心情のゆれを心メーターで表現させて、それぞれの違いを比較しながら、道徳的価値についての感じ方や考え方が多様であることを感じさせる。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ 電子黒板
- ・ ミライシード (オクリンク・心メーター)

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<p>○教員の『みさきさんのえがお』の範読を聞き、どんな話だったか考える。</p> <p>・教材文に共感できたかどうかの立場をはっきりさせることで、お話の見え方には様々な違いがあることに気づかせる。</p> <p>・共感できたかどうかの理由も問い返すことで、友だちの考えだけでなく、教材のあらすじも深く理解させていく。</p>	<p>・教材文について共感できたかどうか、立場をはっきりさせることのできるカードをミライシード (オクリンク) で児童に送る。</p> <p>⇒提出したカードは一覧で見ることができるので、友だちの意見を一目で確認することができる</p>
展開 (30分)	<p>○「ぼく」が困っているのはなぜかを考える。 【写真1】</p> <p>○「ぼく」のしたことはいいことかよくないことを考える。 【写真2】</p> <p>・クラス全体で考えや理由を共有する。</p> <p>○『心の声』を聴いて、自分ならどのように解決するかを自分事として考え、さらに深めていく。</p>	<p>・心の揺れや葛藤を、メーターを用いて表現する心メーター (よい、よくないの度合いをメーターとして視覚化・数値化できるカード) を活用し、ぼくのしたことが「いい」「かよくない」かの度合いを視覚化して表現する。</p> <p>⇒色分けによりみんなの考えが視覚化されているので、全体共有しやすくなる。</p> <p>・「友だちを悲しませるの?」「ばれなかったら大丈夫?」という児童の葛藤を生むような『心の声』を児童の端末に送り、その声を聴いて、自分だったらどうするかを表現させる。</p>
まとめ (5分)	<p>○ふりかえりをする。</p> <p>・今なら、この話を聞いて、どう思うかを考える。 【写真3】</p>	<p>・ミライシードの提出ボックスに提出させる。</p> <p>⇒クラスの友だちの考えも見られるので、自分の考えと比較したり、結び付けて書いたりすることができる。</p>

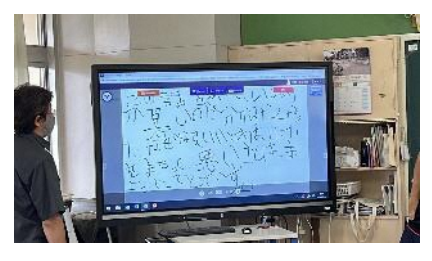
## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真1】『みさきさんのえがお』を読んで、共感できたかどうかを考えています。



【写真2】心メーターを用いて、「ぼく」のしたことはいいことかどうかを考えています。



【写真3】ふりかえりを記入し、友だちの考えと自分の考えを比較しています。

## 児童生徒の反応や変容

自分とは異なる友だちの意見を見ることができ、その理由を「聞きたい」という思いが生まれた。また比較機能を使うことで意見を分類し活発な対話が行われた。

タブレット端末へ書き込むことで、多くの児童の意見を取り上げることができ、多様な考え方を共有することができる。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

『心の声』を使うことで、「自分だったら」で考え、表現しやすくなった。自分の考えだけでなく、友だちの発言も聞き、公正・公平な態度の良さに気づくことができた。心メーターによる視覚化により、全体で共有したり、比較させたりしやすくなり、自分の考えを広げることができた。

今後は特別活動などで本学習を踏まえたうえで、身のまわりの気になることをオクリンクで提出させ、交流させることで、今後の学校生活においても公正・公平な態度で判断し、よりよい生活を送っていく態度の育成にもつながっていくと考える。